



助成制度に関する報告 令和2年度 「国際理解学習プラン 講師派遣事業」報告 ほか	P 2
事業報告 海外マガジンリサイクル ほか	P 3-P 7
がいこくじん りれー えっせ い わし なん じまん 外国人リレーエッセイ 私の何でも自慢 P 8 MASIALA KHAZI RAYMOND 神父 (コンゴ民主共和国出身)	P 8
ほらんてい あかつどう ボランティア活動しています! 岸本 ロベルさん	P 9
がいこくじん じょうほうこーな 外国人のための情報コーナー ごみの出し方	P 9
いべんと かれんだー イベントカレンダー 留学生と県民との交流会 ほか	P 10

おかやま 国際交流



岡山県国際交流協会は創立30周年、
岡山国際交流センターは設立25周年を迎えました。



岡山青年国際交流会 (派遣先:岡山県立新見高等学校北校地)



特定非営利活動法人AMDA社会開発機構 (派遣先:玉野市立東兎中学校)



岡山ユニセフ協会 (派遣先:倉敷市立第五福田小学校)

令和2年度 「国際理解学習プラン講師派遣事業」

「多文化共生」「国際協力・貢献活動」をテーマとした国際理解学習プランについて、応募の中から選ばれた13校にNGOのスタッフを派遣し、実施しました。

今年度初採用となった岡山青年国際交流会は、岡山県立新見高等学校北校地に赴き、インドネシア出身のムスリムの女性の体験談を通してディスカッションを交えながら講義しました。生徒からは「異文化を理解するだけでなく、どうしたら問題を解決できるのか考えていくことが大切だとわかった」などの感想が寄せられ、異文化理解や多文化共生について考える大きなきっかけとなりました。

(続きは次のページへ)

助成制度に関する報告



令和2年度「国際理解学習プラン講師派遣事業」報告

専門的知識と国際経験を有する県内のNGOを学校の授業の講師として派遣しました。6団体が13校で学習プランを実施しました。

派遣団体	実施校(実施順)	プラン名
ダフェプロジェクト	岡山県立倉敷商業高等学校 明誠学院高等学校 備前市立香登小学校	【多文化共生を考えよう「岡山でSDGsをとりいれた多文化共生を考えよう」】 【多文化共生ワークショップ「ネパールの遊び、チュンギーを作ってみよう」】
特定非営利活動法人 AMDA社会開発機構	倉敷市立連島中学校 玉野市立東兎中学校 早島町立早島中学校	【参加型ワークショップで感じよう! 考えよう! 世界と「わたし」 (SDGsを学び、できることを考えよう)】
岡山ユニセフ協会	倉敷市立下津井中学校 倉敷市立第五福田小学校	【ユニセフから知る世界】
アジア農村協力ネット ワーク岡山	倉敷高等学校 倉敷市立富田小学校	【お米を食べて世界を学ぼう 稲作文化圏の共通点と相違点・日本と同じ? 違う?】
特定非営利活動法人 岡山日本語センター	岡山県立勝山高等学校 瀬戸内市立牛窓中学校	【お互いの言葉・文化を尊重して、多文化共生を考えよう】
岡山青年国際交流会	岡山県立新見高等学校 北校地	【Appreciating Differences 一ちがいを理解し、受け容れるために一】

令和2年度「NGOの活性化支援事業」報告

民間の国際交流団体等の国際交流事業などを支援するため、次の2団体に助成を行いました。

団体名	事業名	実施内容
曹永姫 韓国伝統舞踊研究所	日韓友好親善 交流フェス2020年 秋祭り	日本と韓国の芸術文化を織り交ぜ、音楽や踊りを通して国籍や言葉の壁を越えた民間レベルでの国際交流を目的にイベントを開催した。
ダフェプロジェクト	オンライン利用による多文化共生社会 構築のための交流事業	在岡ネパール人にインタビューした動画をYouTubeを通し公開し、身近に外国人市民が住んでいることを岡山県民に広く知ってもらい、交流のきっかけを作るとともに、在岡ネパール人に行政が発信する情報をネパール語で伝えることで地域社会になじむ支援を行った。

令和2年度「日本語教室開設サポート制度（教室見学）」報告

派遣受入れ団体	活動内容
玉島文化協会国際部 会日本語教室 (外国人とふれあい会)	新しく日本語教室を開設した高梁市日本語教室に対して、ボランティアの募集方法や学習者との連携方法、授業方法や教材紹介、教室運営についてなど教室を開設するために必要なアドバイスをを行った。日本語ボランティアと学習者が実際に授業を行っているグループで、学習の機会を設けた。

海外マガジンリサイクル

11月2日(月)～14日(土)

岡山国際交流センター4階図書資料室において2週間にわたり、不要になった海外マガジンや図書の無料配布を行いました。平成22年度から毎年11月に開催しており、今ではすっかりおなじみとなったイベントです。

保存期限が過ぎた海外マガジン(Time、National Geographic、Tuoi Tre Cuoi Tuan、読者、人民中国など)や不要になった書籍を、県民の皆様の読書や語学学習に再利用していただく目的で行っています。外国人の方にも、母国語で書いてある雑誌はとても喜ばれています。今年は初めてEnglish Journal(CD付)も配布物に加え、英語に関心のある人から好評でした。

期間中、延べ84人の方に、雑誌や書籍計303冊を提供

しました。これらの雑誌や書籍の有効活用を通じて、県民の国際的な視野が養われ、今後の国際交流・国際貢献などへの活動参加につながることを願っています。



配布された海外マガジン

災害時多言語支援センター設置運営訓練

11月10日(火)

講師：特定非営利活動法人多文化共生マネージャー全国協議会 理事 明木 一悦氏

大規模災害時に、多言語による外国人支援を行う拠点として岡山国際交流センターに設置される「岡山県災害時多言語支援センター」の設置運営訓練を実施し、協会及び岡山県国際課、岡山市国際課の職員計23名が参加しました。

講師には40年以上多文化共生に関わり、東日本大震災や熊本地震の際に災害現場で活動された経験のある明木 一悦氏を迎え、指導を受けました。

はじめに、災害時多言語支援センターの基本的な役割と



講師の明木 一悦氏



岡山市災害時多言語支援センター訓練の様子

災害時に外国語ができなくても外国人を支援するために役立つ「やさしい日本語」について学び、続いて災害時多言語支援センターの設置運営シミュレーションに取り組みました。

シミュレーションでは「情報収集班」「通訳・翻訳班」「情報発信班」に分かれて、次々に入ってくる災害情報を優先度の高い順に翻訳し、ウェブサイトやSNSで発信するまでの作業を行いました。(※実際の災害時には外国人からの相談を受け付ける「相談班」を入れた4班体制となります。)

別室には、岡山市が大規模災害時に開設する「岡山市災害時多言語支援センター」を設けて、県と岡山市の情報の受渡しや翻訳依頼等の連携についても確認しました。

災害情報の翻訳や、やさしい日本語の知識を深め、災害時には迅速に対応できるよう、引き続き準備を進めていきます。



岡山県災害時多言語支援センター訓練の様子

日本語ボランティアスキルアップ研修会

11月14日(土)

講師：元国際交流基金 日本語上級専門家 小川 京子氏

県内の日本語学習支援者を対象に「学習者の主体的な学びを支援する」と題して開催し22名が参加しました。

はじめに、アイスブレイクとして、参加者全員が言葉を発さずにジェスチャーで相手の誕生日を聞き、誕生日の早い順から一列に並ぶゲームや自己紹介を行いました。

続いて、日本語学習支援者は教えるのではなく、学習者の主体的な学びを支援

するという気持ちで臨むことを教わりました。

学習者が日本語で何ができるようになるか(can-do)とい



講師の小川 京子氏



小川氏による講義の様子

う視点を持つことや、仕事や日常生活などで使う言葉を学習したいのか、試験勉強をしたいのかなど学習者の立場を考えた支援をすることも必要であることを学びました。

最後に小川氏は、仲間

意識を作る、受講者の発話量を増やす、眠たくならないようにする、楽しいものにすることを意識した授業が大切だと述べました。

講師の豊富な知識は今後のボランティア活動に役立つ話ばかりで、参加者からは「長年、海外で日本語教育に携わってきた講師の話は興味深く、あっという間に時間が過ぎてしまった」「同じ教材や同じくらいの指導歴など共通点を持った参加者同士でグループワークをしたことで話が弾んだ」などの感想が寄せられました。



グループワークで意見交換をする参加者

令和2年度災害救援専門ボランティア(通訳・翻訳)研修事業 第1回「外国人と共に学ぶ災害時対応」研修会

11月22日(日)

講師：特定非営利活動法人多文化共生マネージャー全国協議会 代表理事 土井 佳彦氏

共催：岡山県、岡山市、岡山ロータリークラブ

災害時の外国人被災者の支援を迅速かつ円滑に行う体制づくりを目指し、オンラインで研修会を開催しました。

はじめに、共催の岡山ロータリークラブ原 憲一会長から「南海トラフ地震がいつ起きてもおかしくない状況のなか、外国人が犠牲にならないよう、いかに情報を伝えていくか議論していきたい」と開会挨拶がありました。

続いて岡山県国際課から

「岡山県の在留外国人の状況及び災害救援専門ボランティアの制度説明」と題して、県内には約3万人を超える外国人が居住しており、外国人を災害弱者としないため多言語での支援体制の整備が必要であると説明がありました。

講義では、土井 佳彦氏から「災害時の外国人支援 基礎編」として過去の大規模災害の実例とともに、外国人の困りごとやボランティアの求められる役割について学びました。また外



原 憲一会長による開会挨拶



講師の土井 佳彦氏

国人が情報収集に利用している情報ツールや、多言語で情報を受け取れる便利なアプリ等の紹介がありました。

研修会には外国人5か国6名を含む27名が参加し、新たなボランティア登録もありました。岡山県では、災害救援専門ボランティアを随時募集しています。

災害救援専門ボランティア(通訳・翻訳)募集中

活動内容

- 外国人被災者のコミュニケーション支援
- 外国人被災者に提供する各種情報の翻訳(想定される活動)
- ・ 市町村関係者が避難場所等で被災者と面談する際の通訳
- ・ 電話又は避難場所等に出向いての通訳
- ・ 災害時多言語支援センターにおける各種情報の翻訳
- ・ FAXやEメールなどを使った在宅での翻訳

ボランティアの登録・問合せ

岡山県県民生活部国際課 TEL:086-226-7284

地球市民講座「ポストコロナの働き方の変化&世界からのレポート」 12月5日(土)

第1部

「ポストコロナの働き方の変化について」

講師：一般社団法人日本テレワーク協会 専務理事 田宮 一夫氏

第2部

「JICA からの働き方の紹介」

講師：JICA 中国 市民参加協力課 新川 美佐絵氏

第3部

「世界からのレポート」

レポーター：ラファエレ・コール氏（イタリア在住、アーティスト）、チャン・ヘミ氏（オーストラリア在住、語学学校コーディネーター）、デビット・ジュンゼル氏（オーストラリア在住、語学学院院長）、マルシガン・ジョン・エリス氏（韓国在住、英語講師）、石丸 久乃氏（タイ在住、スリン県観光推進協会マネージャー）、やまさき・ゆうか氏（中国在住、主婦）

第1部の講義では、対面を避けるために主に活用されている働き方であるテレワークの概要や事例、働き方の変化による今後の課題について話を聞きました。理想的な在宅勤務の条件や、働き方について認識が変わるべきであることなど、とても参考になりました。また岡山の企業で積極的にテレワークを取り入れて成功した事例の紹介は、参加者にとって興味深く新鮮で良い刺激になりました。

第2部では、JICAの事業にコロナが及ぼした影響や現場での体験談を通じ、働き方の変化によるメリットとデメリットが



第1部講師の田宮 一夫氏



第2部講師の新川 美佐絵氏

紹介されました。

第3部の世界からのレポートでは、さまざまな国のコロナの状況や働き方への影響、各国のコロナ対策などをライブで聞くことができた貴重な時間でした。

28名の参加者にとって、働き方の変化や世界のコロナ事情と対策への理解を深める良いきっかけとなりました。



こちらの二次元コードを読み取り、動画をご覧ください。



世界からのレポートの様子

岡山未来デザイン～YOUTH×SDGs×グローバル～ 12月12日(土)

講師：西栗倉村役場 地方創生特任参事 上山 隆浩氏

特定非営利活動法人ピースウィンズジャパン (PWJ) 管理部部長 角免 昌俊氏

発表：山陽学園中学校・高等学校 地歴部

岡山大学／TABLE FOR TWO-UA 中四国支部代表 中澤 拓也氏

ファシリテーター：JICA岡山県デスク 守都 未来氏

岡山大学／One Young World 2019 日本代表 松本 颯太氏

共催：JICA中国、岡山フェアトレードの会、岡山発国際貢献推進協議会

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



17あるSDGsのゴールのうち11番の「住み続けられるまちづくりを」をテーマに、岡山の豊かな未来社会

の構築を願って「岡山未来デザイン」と題した講演会をオンラインで開催しました。

グローバルの視点でみるために、「地域課題」と「世界課題」の解決を各領域の最前線で力強く挑戦する方々にご登壇いただき、全6セッションと多岐にわたるアプローチを29名の参加者と共に学びました。

第1部では、長期的に地方創生を推進する西栗倉村の上山氏と国内外で活動するPWJの角免氏を講師に迎え、



第1部 左から、上山氏、守都氏、角免氏
第2部 左から、地歴部の部員、松本氏、中澤氏

住民にとって参加しやすいまちづくりの展開などについて、多様な事業活動の経験を聞きました。

第2部の活動発表には、次世代の若いリーダーたち（地歴部の部員、中澤氏）が地球規模の課題の解決に向け、地域の課題を身近な方と連携し協働する取組みについて説明しました。当事者意識を持つ必要性を訴え、参加者の共感を呼びました。

守都氏、松本氏が各部のファシリテーションを進める中で講師や発表者からひきだした「行政は地域のプロデューサー」「失敗は価値の上積み」というキーワードに対して、参加者から「参考になった」「とても共感した」と多くの感想が寄せられました。



開催時の登壇者とテーマはこちらからご覧いただけます。



イベントのパネル展示で啓発をする山陽学園地歴部の皆さん

留学生と県民との交流会

12月19日(土)

講師：サンデック・チャイヤプルークさん（タイ）、張 琦汶さん（台湾）、呂 紹蔓さん（台湾）、徐 佳恵さん（中国）、グエン・ティ・トゥイ・リンさん（ベトナム）、ゴー・バオ・ロンさん（ベトナム）、ド・ダン・コアさん（ベトナム）、レ・タイ・ハーさん（ベトナム）、エンジェル・ベル・ゴンスインさん（マレーシア）、アリユーンボルド・ノムンダライさん（モンゴル）

さまざまな年代の18名の県民が、留学生10名と交流するオンラインイベントに参加し、留学生



クイズを出題するエンジェルさん

の出身地の年末年始の過ごし方について楽しく学びました。

タイ、台湾、中国、ベトナム、マレーシア、モンゴル出身の留学生は、年末年始の出身地の伝統料理や縁起物、地域の催しなどについて工夫を凝らして発表しました。「多民族・多宗教のマレーシアでは、それぞれ暦も祝い方も違う」とのエンジェルさんの説明を聞きながら、参加者は美しい衣装や料理の画像に見入っていました。

「ひとこと講座」では、呂さんから「謝啦」という台湾での友人同士での感謝の表現を学びました。また、レさんからは

ベトナムのあいさつの言葉 Xin chào（シンチャオ）について

「日本の男の子の愛称『しんちゃん』と同じような発音で通じますよ」と具体的な助言があり、参加者は驚きながらも楽しんで練習していました。

交流会の最後には、少人数のグループに分かれてフリートークの会話を楽しみました。参加者と留学生の両方から「もっと時間が欲しくなるくらい楽しい交流だった」と感想が飛び出し、

名残惜しいまま閉会しました。参加者と留学生が互いに交流を深めるよい機会となりました。



和やかな雰囲気留学生と参加者

多文化共生コミュニケーションサポーター研修会

令和3年1月15日(金)、16日(土)

講師：公益財団法人兵庫県国際交流協会 スペイン語相談員／社会福祉士／医療通訳研究会（MEDINT）代表 村松 紀子氏

15日の「コミュニティ通訳とは～基礎編～」では、参加者11名がコミュニティ通訳の特徴や種類、倫理、通訳の原則などを学びました。活動時には、会話に専門的な表現や分からない単語が出てきたら、発話者にやさしい日本語で言い換えてもらうことや、2倍の量を聞いて発話する通訳の苦労は通訳者にしか分からないため、パフォーマンスが落ちてきたと感じたら勇気を出して休憩を求めることも必要であることなど活動する上でのさまざまなテクニックを学びました。



16日、VoiceTraの活用法について

16日は「こんな時どうする～事例で学ぶコミュニティ通訳～」

をテーマに参加者13名が集い、通訳者と相談員の違いや通訳技術、倫理規定、バイスティックの7原則について理解を深めました。また自分の通訳レベルを知っておくことや自己管理、ストレスを抱え込まないためのセルフケアが重要だということも学びました。多言語音声翻訳アプリVoiceTra（ボイストラ）を試用し、便利なツールの役立て方と、機械では対応できない場面の想定を通して、今後、社会においてコミュニティ通訳に求められることが理解できました。グループで行ったケーススタディでは、具体的な場面で通訳としてどのような行動を取るべきか考えました。活動するためには多くのことを学び吸収し、勉強し続けることが重要であると知りました。



15日、村松先生が通訳の種類について説明する様子

留学生等による国際理解学習支援プログラム

9月～令和3年1月

関連団体：岡山県教育庁義務教育課

このプログラムは、県内の大学に在学する留学生や県内在住外国人が講師となり、小学生と文化紹介や遊びを通して交流し、相互に異文化理解を図るものです。触れ合いを通して、子どもたちはさまざまな文化を肌で感じ、世界との関わりを学びます。世界への関心を深めることで、広い視野を持つこと、また外国語学習の意欲向上につながることを期待しています。今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響から、4校（計画は10校）でオンライン授業を行いました。



こちらの二次元コードを読み取り、動画をご覧ください。



子どもたちが先生になって英語で折り紙を教えている様子

活動事例

和気町立佐伯小学校(6年生19名)

9月10日(木)

ちよう うんしる

張 思實さん(韓国)、グルン・ディワンさん(ネパール)、クツ・ボビーさん(米国)

授業の様子

授業のはじめに講師の出身国を当てるゲームを行いました。見た目だけでこの国の出身かを判断するのは難しく、質問等によるコミュニケーションを通して、相手のことを知ることが何より大切だということを体感しました。その後の講師による自国紹介では、文化や簡単なあいさつ等を○×クイズを織り交ぜながら学び、多様な価値観に触れました。授業後、講師から習った外国の言葉を使ってあいさつをする子どもたちの様子が見られたという先生からのうれしい報告がありました。



講師の発表に、たくさんの質問があがりました

井原市立高屋小学校(4年生33名)

12月1日(火)

ふ ぶんてい

付 文婷さん(中国)、バスネット・ナラバジさん(ネパール)、ゲン・キム・リーさん(ベトナム)

授業の様子

子どもたちが一生懸命覚えた講師の国のあいさつから授業は始まりました。民族衣装を身にまとった講師たちが登場すると、子どもたちも笑顔でネパールのあいさつを伝える講師のバスネットさんはわくわくした様子で、文化紹介に興味深く聞き入っていました。授業の後半は子どもたちが先生となり、折り紙と書道を英語で教えました。講師たちは楽しみながら日本文化を体験し、笑顔のあふれる交流会となりました。最後に、「和やかな雰囲気の中で、お互いの文化や心の交流ができて有意義だった」と先生から閉会のメッセージがありました。



笑顔でネパールのあいさつを伝える講師のバスネットさん

美咲町立柵原西小学校(5年生19名)

10月22日(木)

ぎむ ゆ に

まーなん

金 允姫さん(韓国)、馬 楠さん(中国)

授業の様子

講師による自国紹介では、韓国と中国の文化や暮らしの様子について学びました。講師の国と日本をさまざまな角度から比較し、同アジア圏の国の新たな魅力や文化を知ること、世界をより身近に感じることができました。その後、子どもたちから美咲町や日本に関するクイズの出題と、圧巻のソーラン節の披露がありました。講師から子どもたちへ、子どもたちから講師へとオンラインでも積極的に双方向のやりとりができ、活気あふれる触れ合いとなりました。



元気いっぱい、ソーラン節を披露しました

玉野市立荘内小学校(6年生4クラス113名)

令和3年
1月26日(火)

デイビス・ジェイクさん(オーストラリア)、岸本 ロベルさん(フィリピン)

授業の様子

4つのクラスそれぞれの教室で、講師のビデオレターを鑑賞しました。事前に子どもたちから「伝統的な料理を教えて」などの質問が届いており、ビデオレターの中で講師がそれらの質問に答えました。講師の自国紹介では、自然や動物、食事の様子について話がありました。講師からは「直接的な交流が図れなかったが、子どもたちが海外に触れ合う機会に関わることができてうれしい。どんな時でも自分らしくいてね!」とコメントがあり、コロナ禍でも交流を絶やすことなく、温かい触れ合いができました。



ビデオレターを鑑賞する子どもたち

外国人リレーエッセイ

私の何でも 自慢

一チャレンジ精神で文化の違いを乗り越える

広大な面積と豊かな資源

コンゴ民主共和国は、アフリカ大陸の中部に位置し、コンゴ川流域に広がっている国家です。面積はアフリカ大陸で第2位、世界でも11位で、日本の6倍以上です。人口は日本の半分ですが、若者の比率は高いです。



金、コバルト*、コルタン*、石油、ダイヤモンドなどたくさんの鉱物があり、世界トップクラスの鉱物資源国です。しかしまだ財政的には安定していません。これらの鉱物は、インド、カナダ、中国、米国の国々やヨーロッパの企業に掘られ、公的な収入にはなっていません。そのため鉱物をめぐり紛争もあります。

*コバルト…電気自動車やスマートフォンのバッテリーなどに使われている鉱物
*コルタン…携帯電話、ゲーム機など電化製品の生産に使われる鉱物

多言語社会

公用語はフランス語です。学校ではフランス語で授業をしています。コンゴ語、スワヒリ語、リンガラ語、ルバ語の4つの言語を主に使っています。その他にも、240以上の方言があります。

私も英語、フランス語、スワヒリ語などが話せますが、日本ではそれらの言語がまったく役に立たなかったため、大阪の日本語学校で2年間日本語を勉強しました。



にほんごがっこう かに 日本語学校に通っていた頃

MASIALA KHAZI RAYMOND 神父

(コンゴ民主共和国 カングー村出身)

●所属：倉敷カトリック教会

●日本在住歴：6年



あたたかい人間関係

コンゴ民主共和国は暖かい国で、人間関係も温かいです。

そして、人とのつながりや家族との絆が強い

です。「家族」とはおやこ親子など血縁関係に限定されているわけではなく、間接的に関係するすべての人を意味します。そのため結婚式、お葬式、パーティーなど、何かがあると、みんなが参加して助け合います。一番素晴らしいことは、いつも笑顔で輝いている人を見ることができるとです。みんな内面の苦しみを隠すことなく、明日は大丈夫! だと思って、いつも悪い状態から良い状態になると信じています。



かぞく いっしょ 家族と一緒に

このような環境で育ってきたので、日本の生活で最も悩んだのは人間関係です。友人を作ったり、自分を受け入れてもらったりするまでに時間がかかりました。数年経った今でも心を開いて話せる友達を作るのが大変で、迷子になったようで、孤独を感じることがあります。日本人が友好的ではないわけではなく、文化の違いだと思います。

人とのつながり

宣教司牧という仕事は、簡単に言えば神様のために仕えることです。遠い国から日本に来て宣教



くらしきカトリック 倉敷教会の集い

活動することは、想像を超える大きなチャレンジでした。しかし、日本人の皆さんが私を兄弟、子ども、孫のように受け入れてくれたおかげで、今では岡山も「住めば都だ」と思えるまでになりました。これからも国籍の違いを超えて、この社会に役立つものとなるよう、全力を尽くしたいです。



多文化共生コミュニケーションサポーター派遣での活動

子どもの発達について面談を受ける親子の通訳をしました。日本とフィリピンでは教育システムや教え方が異なるので、日本で基礎を学んでいない子どもにとって就学は過酷です。子どもの苦労する姿を見るのは辛かったです。通訳の役割を果たし、親子はとても喜んでくれました。

通訳について

通訳は簡単ではありません。そのまま訳しますが、その人と相手の関係も考えなければなりません。状況によって、そのまま訳すか確認を取りますが、大抵「これは訳さないで」と言われます。人間関係の間に入っているという責任を感じます。また、活動する上で、自分の能力を知ることが大事です。私はその人の悩みを抱え込みそうになることがありますが、それでは通訳はできません。自分の性格はよく知っている、これはできる、これはできない、と線引きをしています。

私も日本に来た時は大変だったので、新しく来た人たちをサポートして、子どもたちを励まして応援したいです。日本の皆さん、特に学校の先生には、やさしい日本語を使ってほしいです。外国籍の皆さんは、分からない時はやさしい日本語をお願いしてみてください。



外国人のための情報コーナー

ごみを出すときに気をつけることを
知っておきましょう。

ごみの出し方

- ごみを分けてすてます。
- 何曜日の何時に、どこに、どんなごみをすてるか、決まっています。
- 多くの町では、ごみの車が来る日の朝に、ごみをすてます。
- 決められたごみ袋を買って、そのごみ袋に入れてすてなければいけない町もあります。
- ごみの分け方やすて方は、市町村によって違う場合があります。近所の人や市町村の役所にきいてください。



ごみの種類の例

燃えるごみ	燃えないごみ	資源ごみ	粗大ごみ	家電ごみ
生ごみ、紙くず、 木くず、紙おむつなど	割れた皿・コップ、 金属、ガラスなど	ビン、缶、ペットボトル、 段ボールなど	自転車、ふとん、 家具など	テレビ、冷蔵庫、 洗濯機など
捨てるときお金がかかることがあります				



道や山の中に
ごみをすてては
いけません。



すててあるごみを持っ
て帰ると犯罪になるこ
とがあります。



イベントカレンダー

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今後の状況により、変更または中止になる可能性があります。あらかじめご了承ください。
最新情報は当協会のホームページをご確認ください。

6月

12日(土) 留学生と県民との交流会

県内在住の留学生が講師となり、文化や習慣などの紹介をします。

- と き 令和3年6月12日(土) 13:30～15:30(予定)
- と ころ 岡山国際交流センター 7階 多目的ホール
- 対 象 一般県民
- 参加費 無料
- 定 員 30名(要申込み、先着順)
- 申込み 企画情報課(5月中旬受付開始予定)

親子で遊ぼう

-Family Friendly Event-(仮称)

子どもたちに外国語や外国の文化に接する機会を提供し、英語をはじめとする言語や異文化への理解を深めるイベントを開催します。

- と き 令和3年6月(予定)
- と ころ 岡山国際交流センター 4階 図書資料室(予定)
- 講 師 県内在住外国人
- 対 象 県内在住の子ども(3歳～小学6年生)とその保護者等
- 参加費 無料
- 定 員 20名
- 問合せ 企画情報課

ITボランティア募集!

Zoomを使ったイベントやSNS広報のサポートができる方、ボランティアとして活動してみませんか。



- 活 動 日 随時、1回3～4時間程度
- 活動場所 岡山国際交流センター 会議室 ほか
- 申込方法 お名前、E-mailを記入の上、
vnet@opief.or.jpへメールください。
- そ の 他 イベント実施前には「Zoomの基本的な使い方」等についての説明を行いますので、安心してご登録ください。
- 申込み・問合せ 企画情報課

特別展「肉筆浮世絵の世界」(県立美術館開催)
チケットを5名様にプレゼント!

アンケートフォーム



令和3年4月11日(日)までにアンケートにご協力いただいた会員の中から抽選で5名の方に、岡山県立美術館特別展「熊本県立美術館所蔵 今西コレクション 肉筆浮世絵の世界 アナザーワールド発見!」(開催期間:2021年5月21日(金)～7月4日(日))チケット2名分をお送りします。発表は発送をもって代えさせていただきます。

岡山県立美術館より

江戸時代、庶民間に広く流行した浮世絵版画とは異なり、絵師が絵筆をとって描く一点限りの肉筆画は貴重で、富裕層に愛されました。浮世絵史の沿革をたどれる貴重な今西コレクションの中から厳選された約130点を展示、美人画や役者絵など江戸文化とともに花開いた肉筆浮世絵の魅力余すところなく紹介します。花魁や遊女、芸妓、町娘など江戸の町に輝きを放つ美人たちの競演や、ダンディな歌舞伎役者も揃い、四季折々の行事や遊び、名所風景など見所満載です。

歌川豊国《遠眼鏡美人図》(部分)



会員募集

一般財団法人岡山県国際交流協会では会員を募集しています。

☆会員の特典

- 会報誌「おかやま国際交流」による国際交流情報の提供(年4回)
- メールマガジンの配信(月1回)
- 協会主催事業への参加費割引(団体会員は1団体2名までを割引)
- 入会時に記念品をプレゼント

☆年会費

個人会員：2,000円 団体会員：10,000円
賛助会員：30,000円

☆申込み・問合せ 総務課まで

TEL:086-256-2000 ※9:00～17:30(月～土曜日)
E-mail:kokusai@opief.or.jp



問合せ

一般財団法人 岡山県国際交流協会

企画情報課 企画情報班

☎086-256-2914 (月～土 9:00～17:00)

総務課 ☎086-256-2000 (月～土 9:00～17:30)

会議室等の予約 受付管理班 ☎086-256-2905 (9:00～18:00)

[休館日] 12月29日～1月3日及び臨時休館日(ただし日曜日は貸室業務以外休み)

編集・発行

〒700-0026 岡山市北区奉還町2-2-1
岡山国際交流センター内
一般財団法人 岡山県国際交流協会
☎086-256-2000(月～土 9:00～17:30)
☎086-256-2226

ホームページ: <http://www.opief.or.jp>

Facebook: <https://www.facebook.com/coolopief/>

Twitter: https://twitter.com/opief_okayama

E-mail: kokusai@opief.or.jp

協会HP

